

育児休業に関する体験記

30 代 31 日間取得

① 家事 ・ 育児 について	1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか 家事は、料理と授乳以外はほとんど担当することで話し合った。主に掃除・洗濯等を実際に行った。名前の付かない家事が多いことを感じた。 育児は、第二子だったこともあり、より手のかかる上の子(当時1歳10か月)を担当することとした。歩き回る、というより走り回るため何をするにも追いかける日々であった。下の子もおむつ替えや風呂入れなどは行った。また、下の子は寝入りが良いため、寝かしつけで苦労した記憶はない。 2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について 家事に関しては、洗濯や食器の洗い物など仕事から帰ってできることは極力するよう心掛けている。 育児は、相変わらず上の子担当である。妻も大変そうで、極力早く帰りご飯から一緒に付き合えるよう日々過ごしている。
	(妻 記載欄) 休業取得者の家事・育児の参画の状況について 以前にも増し、協力的に家事・育児へ参加してくれるようになった。育休を取得したことで、本人も意識が変わったように思う。
② 仕事 について	1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか 関わる方々には事前に打合せを通じて業務状況を報告した。第一子で育休を取得したこともあり、理解していただき引継ぎはスムーズに進んだ。 2. 評価・反省 子供が安定期に入った段階で報告していたため、上長も仕事配分に気を使っていたき身軽な状態で育休に入ることができた。引継ぎでは、文章にあまり残さなかったため、判断に迷わせてしまうことがあった。できる限り見て理解できるものを準備しておく必要があると感じた。

③ 自由 記述 (400 字程 度)	(取得者 記載欄) (例：育児休業取得の経緯、育休を終えての所感、周囲の反応) -育休を終えての所感- 我が家の第一子が誕生したとき、育休を取得した。第二子誕生にあたっても取得することができたが、一昔前は珍しい存在であったことは事実である。上長の理解がある現在であるが、今の管理職の方々は育休を取得する間もなく仕事に励むのが当然の時代であっただろう。現在は恵まれている。父親が、子が誕生して間もない貴重な時間を共に過ごせるのは、現代ならではの思う。 育休を二回取得し、生きていくのは仕事だけではないことを教わった。子供が産まれるまでは、仕事を優先していた自覚があるし、それが私の生きる道だと思っていた。だが、子供が産まれ、新しい視点を与えてくれたのは育休という時間であったと思う。今後は、自分なりに仕事と家庭のバランスをうまく取れるようにしていきたい。 もちろん、育児は幸せな時間ばかりではない。第一子の時には、寝てくれずに風の強い日に外で子供を抱っこしながら途方に暮れることもあった。しかし、育休という時間は、そうした育児の様々な感情を含めて多くのことを教えてくれた。 新たな価値観をくれた我が子へ感謝するとともに、学ぶ時間をいただいた職場の方々には心から感謝している。そして何より、共に生活し、喜怒哀楽を共有できる妻へ、いつもありがとう。
---	--